

## 平成23年度における高大連携の取組

### ○ あいち理数教育推進事業

#### 1 事業の目的

これまで各学校で進めてきた理数教育に関する優れた取組を全校に普及するとともに、高大連携の充実を図ることにより、本県の理数教育の一層の発展と、科学技術創造立国を目指す我が国を支える優れた人材の育成を目指す。

#### 2 事業内容

##### (1) あいち科学技術教育推進協議会（平成21年度～）

本事業における中核的な役割を担う組織として、理数教育に力を入れている県内の高校が中心となって、科学技術に関する教育活動に関する情報交換や研究協議を行う。

##### 【平成23年度実績】

- ・幹事会（岡崎・一宮・時習館・明和・刈谷、年間2回開催）
- ・協議会議（参加高校23校、前年度比5校増加、年間2回開催）
- ・発表会（「科学三昧 in あいち 2011」平成23年12月27日（火）実施、自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター、参加者は大学関係者、生徒及び高校教員等を含め約600名）

##### (2) 高大連携連絡会議（平成22年度～）

部会別に開催（普通科、農業科、工業科、商業科、家庭科等）

##### 【平成23年度実績】

- ・普通科（外国語）部会 「外国語（英語）教育における高大連携」  
平成23年6月実施及び平成24年1月実施予定、外国語関係学科及びコース設置校9校と外国語学部設置4大学が出席
- ・農業部会 「大学と農業高校の連携について」  
平成24年2月実施予定、農業科等設置校10校と県内関係5大学が出席
- ・工業部会 「大学と工業高校の連携について」  
平成24年1月実施予定、工業科等設置校3校と県内関係4大学が出席
- ・商業部会 「地域振興のスペシャリストの育成について」「会計のスペシャリストの育成について」「情報のスペシャリストの育成について」  
平成23年12月及び平成24年1月実施済み、商業学科等設置校12校と関係9大学が出席

- ・家庭部会 「大学と家庭科の連携について」「大学と福祉科の連携について」

平成 24 年 2 月実施予定、家庭・福祉科等設置校 15 校と家庭科関係 4 大学並びに福祉科関係 3 大学が出席

### (3) 高大連携による科学技術講座（知の探究講座）（平成 16 年度～）

#### 【平成 23 年度実績】

- ・開講講座

名古屋大学「数学とはどんな学問なのだろうか」（25 名受講）

愛知教育大学「生物多様性と地球と宇宙の探究」（23 名受講）

名古屋工業大学「未来を創るマテリアル科学と工学技術」（20 名受講）

豊田工業大学「モノづくりの科学」（11 名受講）

愛知県立大学「人の心を知る」（45 名受講）

豊橋技術科学大学「次世代ロボット創出プロジェクト」（11 名受講）

- ・講座実施回数：全講座 9 回（発表会（平成 24 年 1 月 28 日（土）実施予定）を含む。）
- ・参加生徒 42 校 135 名（うち、私立高校 1 校 2 名）

### (4) 科学の甲子園（平成 23 年度～）

全国の科学好きの生徒が競い合う場を構築することにより、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目指す。

#### 【平成 23 年度実績】

愛知県代表チーム選考会（「あいち科学の甲子園」）

- ・トライアルステージ（平成 23 年 8 月 7 日（日）実施、筆記による選考、6 チーム選出（岡崎、一宮、明和、時習館、海陽学園、岡崎北））
- ・大学での講座受講（名古屋大学における生物、物理に関する実験実習等、11 月～12 月に 4 回実施）
- ・グランプリステージ（平成 24 年 2 月 5 日（日）実施予定、実験・観察、工作等による選考、代表 1 チーム選出、審査等を大学関係者に依頼）

全国大会

- ・平成 24 年 3 月 24 日（土）～26 日（月）、兵庫県
- ・高校ごとにチームを結成し対抗する学校対抗型
- ・科学技術・理科、数学等、複数分野の課題を設定

## 大学生等の愛知県総合教育センターにおける研修・講座の参観について（報告）

H24. 1. 24

### ■愛知教育大学教職大学院生の参観

○参観者：教育実践研究科 10人〔修士課程2年生・3年生〕※申込12人、当日欠席2人

○引率者：萩原 孝〔准教授〕

#### 1 参観期日・研修

平成23年10月19日（水） 平成23年度小学校初任者研修第8日（B班）

#### 2 当日の日程

- 10:05～11:05 講義Ⅰ「総合的な学習の時間の意義と実際」  
講師：西尾市立西尾小学校教諭 小山 聡子
- 11:20～12:20 講義Ⅱ「特別活動の目標と内容」  
講師：蒲郡市立三谷中学校教諭 石川 幸浩
- 13:20～16:20 教科別協議会「授業の分析と診断 ～言語活動の充実に向けて～」  
※国語、社会、算数を参観

### ■愛知みずほ大学生の参観

○参観者：人間科学部養護保健コース 8人（3年生4人、4年生4人）

○引率者：後藤多知子（専任講師）

#### 1 参観期日・研修

平成23年11月4日（金） 平成23年度新規採用養護教諭研修第9日  
（平成23年度養護教諭5年経験者研修第3日と合同開催）

#### 2 当日の日程

- 9:50～12:00 研究協議「養護教諭の役割と執務上の課題」  
講師：尾張教育事務所指導主事 辻本 祐子  
西三河教育事務所指導主事 小林 友美  
県立加茂丘高等学校 村瀬 久美
- 13:00～14:30 講義「発達についての理解とその対応」  
講師：愛知県中央児童・障害者相談センター児童専門監 前田 清
- 14:40～16:20 講義「アレルギー疾患の管理と保健指導」  
講師：藤田保健衛生大学教授 宇理須厚雄

### ■愛知県立大学生の参観

○参観者：教育福祉学部教育発達学科 9人（3年生、4年生）※申込12人、当日欠席3人

○引率者：田中良三（教授）

#### 1 参観期日・研修

平成23年11月8日（火） 平成23年度特別支援学校初任者研修第11日

#### 2 当日の日程

- 14:15～15:15 学習指導の実際Ⅰ「知的障害児の学習指導」  
講師：県立安城養護学校教諭 鈴木 康洋
- 15:30～16:30 学習指導の実際Ⅱ「肢体不自由・病弱・身体虚弱児の学習指導」  
講師：県立ひいらぎ養護学校教諭 倉知 利勝

<事後アンケートより>「今後、教職を目指すに当たって、本日の参観にどのような意義を感じましたか。あるいは、参観を通して、どのようなことを学びましたか。」

#### ■愛知教育大学大学院生のアンケートより

- 改めて教職に就きたいと思った。子どもたちに学力をつけるため、しかも楽しく学ぶ力をつけられるようにしたいと強く思った。
- 教師の一番のポイントは授業だと思った。子どもたちに魅力ある授業をするために、残りの院生活を送っていききたい。
- 初任者が実際に行っている研修に参加することで、来年からのイメージが湧いた。私も来年、このよう場では積極的に参加・交流し、限られた時間の中で、たくさんのことを吸収していきたい。初任研の様子が分かり、貴重な経験になった。
- 教科別協議会を通して、①普通の授業を振り返り、課題を明確にすること、②課題を共有し、他者の課題を自分のこととして考え、深めること、③課題の本質に気付き、新たな視点を学ぶこと、を学んだ。また、板書のキーワード化、話の引き付け方、板書の美しさなど、大変勉強になった。
- 来年度から、同じ立場になるが、多忙な中でも、新たに学んでいる先生方を見て、来年度のイメージがつかめるとともに、研修が楽しみになった。

#### ■愛知みずほ大学生のアンケートより

- 本日参観させていただき、全てが学びになった。研究協議では、現職の先生方の意見や考えを直接伺うことができた。特にブレインストーミングでは、学生では考えつかない多面的な方法や学校で実践されている方法を学ぶことができた。その意見を聞いていく中で、学校・保護者、地域との連携や、学校保健委員会についてのことなど、今、私が大学で学んでいることが全て現場につながっていくということを実感できた。また、先生方の明るい表情や協力的な姿勢等も勉強になり、養護教諭になるんだという自分の意識が非常に高まった。
- 第一に養護教諭として実際に学校で勤務をしたいという意欲が強くなった。協議会を参観させていただき、養護教諭の方々の生き生きとした姿を拝見し、私自身も養護教諭として子どもたちの成長を見守って行きたいと改めて感じる事ができた。先生方の姿から養護教諭としての在り方を再確認し、自分自身の新たな課題を発見することができた。
- 今年度、養護教諭になるという夢が叶い、目を輝かせて子どもたちのことを考え、話し合っている先生方や、先生と子どもたちのために専門知識を教えたいという講師の方の姿を拝見し、憧れを抱いた。より、一層知識を深め、正しい対応や判断ができる養護教諭を目指し、努力したい。

#### ■愛知県立大学生のアンケートより

- 講師の先生方の教育に対する思いに触れることができた。同僚である初任者の先生たちに対する言葉から、よい先生になってほしいという思いが伝わってきた。
- 講師の先生方のお話もとてもためになったが、学生という視点からすると、1年目の先生方がどのような考えや、不安、疑問をもっているのかということにとっても興味があったので、質疑応答の時間は、現場で働く初任者の方の生の声が聞けて新鮮だった。学生のうちに研修を見ておくと、モチベーションを上げることができる。
- 来年度から初任研を受ける身として、実際の研修を見ることができて、本当に有意義だった。現場での話や指導方法など大学では学べないことを学んだ。そして、一番大事なことは、常に、初心を忘れないこと、子どもたちとしっかり向き合っていくことだと改めて感じる事ができた。今後の見通しをもつ上で貴重な経験となった。
- 大学の講義の中で一番取り組みたいものは実践例を知ることである。まさに今日は、現場の先生方から、実践例を聞かせていただくことができた。